



## 2020年度 協会計画研修について

研修部



2020年度協会実施研修は、東西研修センタ合わせて約300コースの計画となりました。受講予定者は約7,000名です。以下に概要を記します。

### (1) 安全

安全関連の研修は、約35コース、受講予定者は約850名です。新設研修としては、「5Sの定着化による安全衛生の向上とコストダウン研修科」、「安全運転のための交通危険予知活動実践研修科」、「KYT（危険予知訓練）研修科」、「安全衛生研修科（初級）」、「職場リーダー向けリスクアセスメント研修科」など、比較的施工現場に近いところでの安全に役立つものとなっています。

前年度から継続する研修として、安全専任者研修、安全パトロール研修、各種設備事故防止対策インストラクタ研修、PSF分析手法研修等を、また施工者向けには、危険体感や高所作業車危険再認識教育、電源線工程責任者研修などを実施します。なお、安全専任者研修については、1日目のKYTは既得者が多いとの声から省くこととし、全体を2日間としますが内容については研修分科会で検討しており、その結果をふまえて再構築する予定です。

現在、基礎研修線路科等のカリキュラムとして実施しているフルハーネス型墜落制止用器具特別教育については、NTT様の規格に応じた器具を揃え今後の現場に即した実習ができるよう準備しています。

### (2) 新入社員

新入社員向けの基礎研修は、線路科、土木科、所内科、電力科および所内／所外を合わせた統合科の5コースを設定し、全体では前年とほぼ同じ約500名です。

線路科については、昨年度カリキュラムに加えた線路設計について、基本的な設備知識が不十分なところでの設計実習は難度が高かったため、今年度は基礎知識のみとし、時間が不足がちだった他の実習の時間配分を増やす見直しをしています。

所内科については、交換方式、伝送方式、TCP/IP、IP通信方式の各座学について5時限＋1時限（テスト）に時間数を合わせる見直しを行いました。

また、基礎研修に連続設定される低圧電気取扱業務特別教育科は好評で、今年度も300名強の受講を計画しています。

### (3) 電気通信設備の工事・保守技術

電気通信事業者向けの工事・保守等に関連する技術研修は、最多の約100コース、2,200名の計画です。

5Gに関する技術研修、光線路設計／工事研修、伝送・PTM/PTS装置研修等、新たに導入された方式・技術・工具・材料等に対応した研修はもとより、メタリック線路、LTEや固定無線方式等の根強い需要のあるレガシー技術研修も計画しています。このほか、施工の安全品質を確かなものとするための主任技術者研修、交流電源無瞬断工事主任者研修、線路・土木・所内等の品質管理や、線路設計業務に必須である社外折衝実務、支障移転対応技術等、設計・施工業務に関連した研修を幅広く計画しました。西日本研修センタでは、各社内での円滑なスキル拡大に資するべく、各種光施工技術研修をインストラクタ向けとして内容を充実させています。

保守技術関連では、NTT東西様の保守受託業務を円滑に実施するべく、スキル育成ニーズは依然高いものとなっており、光・メタルケーブル線路設備保守技術をはじめ、東日本では所内保守業務研修の上級を新設、西日本では多数のアクセス設備保守研修を継続します。

トピックとしては、「分散給電装置科<新装置>」に



写真1 分散給電実習設備

ついて、この2月に実習設備の最新化(写真1)とテキストの大幅改定を実施しました。コース名のとおり最新装置に沿った内容となり、実習では高電圧直流給電機能を含め多様な試験、アラーム発報等を体験することができます。昨年度も日程を変更して3月に当該研修を実施したところ講師、受講者とも大変好評で、今年度はさらなる要望にこたえるべく内容のブラッシュアップを図ります。なお、本研修設備は基礎研修電力科や設備事故防止研修でも活用しますし、会社計画の研修でもご利用可能ですので東日本研修センタまで問い合わせください。

#### (4) ユーザ系設備の工事・保守技術

ユーザ向けの工事・保守等に関連する技術研修は、ビジネスユーザ向けを中心に約90コース1,200名の計画です。ビジネス系の設計・工事業務は拡大傾向にあることから、LAN/WAN、ビジネスホン、複合機等の研修を充実しました。

LAN/WAN系では、無線LAN研修について構築入門、実践、応用、トラブルシューティングなど、またルータ研修については従来の設計・施工に加え、セキュリティとしてメジャーなJuniper社、Fortigate社製品対応のものを新設しました。ビジネスホン系では、新人向けの基礎をはじめ、αA1、αNX-IIシリーズ研修を、また複合機については各メーカ製品に応じた研修を設けています。

IT系研修は例年少人数で計画するコースが多く、欠員の発生から中止せざるを得ない、もしくは受講料が割高な研修が多くあったことから、今年度から最低実施人数の見直し、市中類似研修との受講料比較によるコストメリット有無等を検証しました。その結果、約20コース、200名強となり、昨年比コース数では1/3、受講者数では8割程度となっています。ラインナップとしては、クラウド(AWS等)、RPA、IoT、データ分析(Excel等)など、最新動向に沿った内容のもの比率が高まることとなりました。

#### (5) 資格法令関連

公的資格関連研修は、約35コース、約1,600名の計画です。

昨年度は国家試験制度として電気通信の施工管理技士資格試験が新設され、東西研修センタにおいて学科および実地の受験対策研修を計画し大変多くの方に受講していただきました。今年度も1級電気通信施工管理技士試験対策研修を設定したところ、学科、実地それぞれ約250名の応募をいただきました。今年度は昨年度の出題

傾向を分析・反映させるほか、要望の多かった実地研修の座学時限数を半日増やし記述問題への対策を強化する見直しを行っています。

他の資格関連研修は、各種工事担任者、第1・2種電気工事士、第1級陸上特殊無線技士、1級電気工事施工管理技士等を、また法令に基づく特別教育研修としては低圧ならびに高圧・特別高圧電気取扱業務特別教育を計画しています。

#### (6) マネジメント

リーダー、マネージャ育成を目的とした研修は、工事長あるいは現場代理人向けの総合的な資質づくりを目的とするコンストラクションマネージャ研修や、各種リーダーシップ、マネジメント、コミュニケーション等の研修を実施します。

#### (7) 研修運営

今年度も恒常的な品質および鮮度の向上を目的に、研修結果の評価や技術動向を見越した課題について対応すべく、各社から選出されたメンバーを委員とする6つの技術専門+安全の研修分科会にて研修のPDCAを推進します。研修センタにおいても全研修において受講生や会社講師の声を基にきめ細かい改善を迅速に実施する活動を行っています。

また、今年度の遠隔研修は、無線技術基礎、5G基礎技術、1級電気通信施工管理技士対策等を計画しています。実習を含む研修は困難ですが、少しでも多くの方に身近なところで受講機会を得ていただくとともに、移動時間とコスト削減にも役立つよう今後もメニュー化を考えていきます。

以上が2020年度の研修概要です。

今年度は、予期せぬ事態として、新型コロナウイルスの感染防止対策の一環として、執筆時点で東西研修センタとも4、5月の研修は中止となりました。研修再開は世の中の状況を見つつ決定予定ですが、いつでも再開できるよう準備しています。

研修センタとしても消毒スプレーや除菌シートなどを揃えています。不特定多数の集まる研修ですので、今回に限らず常日頃から各自の健康管理と手洗い・うがい等の基本的予防衛生の習慣づけを改めてお願いします。